

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第5号 畜産

発行日 平成23年7月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR
コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

牧草 2番草刈り取りは10～15cm程度の高刈りとします。
草地更新の準備をしましょう。
スジキリヨトウによる食害の有無に注意しましょう。

家畜(牛)の暑熱対策

今年は家畜の苦手な暑い季節が長く続きます。
通気を良くして快適な環境を作り、暑熱による生産性の低下を防ぎましょう。

1 草地管理(2番草)

7月中旬頃から2番草の収穫作業が始まっています。夏の強い日差しを受けると地面の温度が上昇し、根が高温障害を受けやすくなりますので、刈り取り高さは10～15cm程度の高刈りとし、根を直射日光から保護しましょう。

刈り取り後は再生を促すために素早く追肥を行ってください。チッ素成分で3～5kg/10a 施します。なお、高温下での追肥は草地を痛めますので控えましょう。

2 草地更新

8月下旬から9月中旬は、牧草の播種適期です。裸地や雑草が多い草地は、収量と栄養成分を確保するため、草地更新を行います。

更新は、耕起をしない簡易更新法と、耕起をする完全更新法があります。

雑草の侵入が少ない場合や、傾斜地で土壌流亡が懸念されるため完全更新が実施できないような場合は、簡易更新を行います。簡易更新は完全更新に比べて、短期間・低コストで更新が可能です。

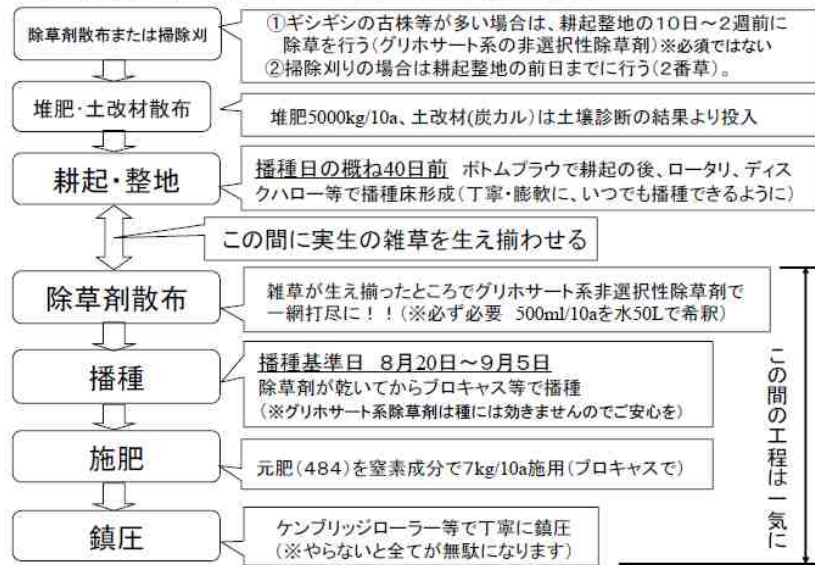
雑草の侵入が多い場合、完全更新法を実施します。この更新法に除草剤の播種日同日処理技術を組み合わせることで、より確実な草勢の確保ができます。手順は、次のとおりです。

- (1) 播種する1ヶ月前に耕起・整地・播種床の造成を完了し、雑草を繁茂させる
- (2) 播種日に非選択制除草剤を雑草に散布し、播種する

1. 簡易更新法(作溝式)



2. 完全更新法(除草剤の播種同日処理技術)



以上の更新作業は、(社)岩手県農業公社に委託することもできますのでご検討下さい。
また、簡易、完全更新どちらについても、忘れずに土壤改良を実施して下さい。

3 スジキリヨトウによる牧草の食害に注意

昨年2番草刈取後、スジキリヨトウによる食害が滝沢村と県南部で多発しました。スジキリヨトウは老齢幼虫で越冬し、夏期高温年に大発生するため、本年も注意が必要です。

食害を受けると草地在枯れたようになります。虫が**大きくなると薬剤が効かない**ので、**早期発見と適切な薬剤防除**が大切です。



↑スジキリヨトウの幼虫



↑スジキリヨトウの成虫



↑食害を受けたオーチャード草地
イネ科を好んで食害し、シロクローバ、ギシギシは食害されずに残っている



↑リードの茎に登っているスジキリヨトウの幼虫
夜間に活動が活発になる

スジキリヨトウ

老齢幼虫で越冬し、夏期高温年に大発生する。大発生した場合、草地在枯れたようになる。

幼虫の第1世代は6月下旬から7月上旬、第2世代は8月下旬から9月上旬に発生密度が高くなり、被害が大きいのは第2世代である。本県では年2世代の発生であるが、夏期高温年は3回目の成虫が発生することもある。

幼虫は約25mm以下の大きさ。幼虫の期間は26-30日間。最初は黄緑色であるが、大きくなるに従って褐色を帯び、中央と背面両側に茶色の縦縞ができる。

草丈の長い所に、白い卵塊が産み付けられる。ふ化までは、第1世代で9-12日間、第2,3世代で6-7日間。

4 暑熱対策

牛は、発汗による体熱放散が十分にできませんので、環境温度と体感温度を低下させる対策が必要です。また、ルーメン内での発酵熱の大きい粗飼料を中心として採食量が減少するので、良質粗飼料を準備するとともに、泌乳牛では、ルーメンアシドーシスを予防しつつエネルギーやミネラルを充足する対策が重要になります。

(1) 環境温度と体感温度の低下対策

- ア 遮光ネットの設置による日光の遮断、屋根裏への断熱材の取り付け、屋根表面への散水や石灰塗布などにより、畜舎外から畜舎内に伝わる熱さを緩和します。
- イ 強制送風（換気扇、ダクトなど）は昼間のみならず夜間も最大限に稼働させます。風は、熱放散の高い頸部や肩部を確実に流れるように、送風機の設置位置の調整や台数を増加します。
- ウ 牛体の毛刈りは体熱放散に有効です。特に分娩直前から泌乳最盛期の牛を優先して実施します。

(2) 飼料給与の対策

- ア 新鮮な水を十分に飲水できるようにします。水槽の掃除はこまめに行います。
- イ 嗜好性と消化の良い粗飼料（適期収穫）を給与します。外気温が低下する夜間から夜間から早朝にも採食できるようにしてあげてください。
- ウ 配合飼料の給与量が多い搾乳牛は、ルーメンアシドーシスを予防するため、配合飼料の給与回数を増やすか一部を可溶性繊維の多いビートパルプ（3～3.5kg 上限/日・頭）で代替します。また、重曹（100～200g/日・頭）を給与し、ルーメン内pHを緩衝します。
- エ エネルギー補給のため、綿実などの油脂の給与も有効です。ルーメン微生物の活性と乳脂肪分率の維持を考慮し、綿実の給与量は1頭あたり1日2kg程度が上限です。また大豆油やパーム油を原料とするバイパス油脂の給与も有効ですが、リノール酸含量が多いものは、繁殖に有益であっても乳脂肪合成を阻害する場合があるので、給与量については推奨量を参考にします。
- オ 発汗やよだれの増加により、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、カルシウム、リンなどのミネラル要求量も通常の10～20%増加します。乾乳後期牛を除き、鉍塩を切らさないようにするとともに、重曹を補給し、リン酸カルシウムを増給します。

次号は8月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう